

伊豆鳥島の地熱活動*

Geothermal Activity of Izu Torishima Is.

九州大学大学院理学研究院 地震火山観測研究センター**

Institute of Seismology and Volcanology, Faculty of Sciences, Kyushu University

2013年9月10日に伊豆鳥島の現地調査を実施した。今回は滞在時間が短かったため、サーマルカメラによる調査のみ行った。硫黄山北西部の噴気地帯は1957年以降2005年まで100℃を保っていたが、



第1図 北方上空から見た伊豆鳥島

Fig 1 Aerial view of Izu Torishima from northern side.

2010年は88℃まで低下し、今回の調査では噴気・硫黄臭気が全く無くなっていた。

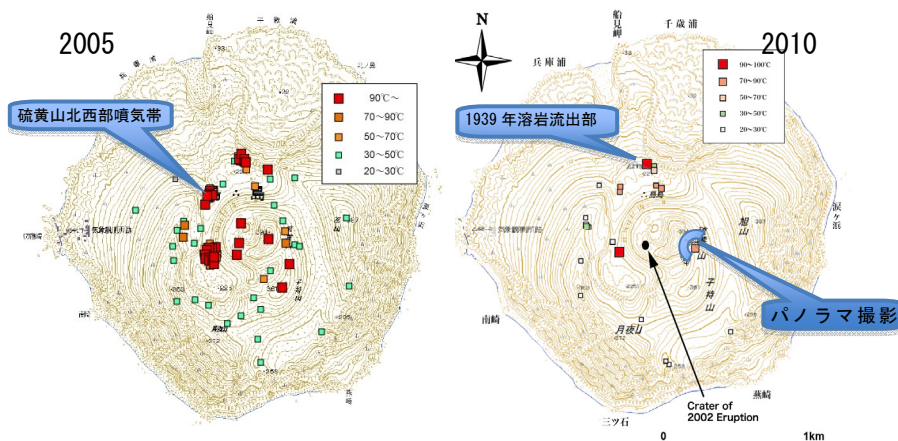
また、千歳浦上部の1939年溶岩噴出口や子持山・硫黄山の高温地域もサーマルカメラによる調査では周囲の地表温度(40～50℃)と差がなかった。これらの状況から、伊豆鳥島は2002年の噴火以降は徐々に火山活動が衰退しつつある状態と考えられる。なお、地震計記録では月に10～20回程度の火山性地震は2002年から引き続き記録されている。

図の作成には国土地理院発行の2万5千分の1地形図(伊豆鳥島)を使用した。また本調査には環境省関東地方環境事務所・山階鳥類研究所の協力を得た。



第2図 硫黄山～子持山鞍部からみた中央火口丘の可視及び赤外画像

Fig 2 Visual and thermal images from the saddle point between Iwo and Komochiyama.



第3図 50cm深地温分布(左)2005年9月(右)2010年6月(第117回火山噴火予知連 九大資料)

Fig 3 Distribution of geothermal temperature anomaly at 50cm depth on Izu-Torishima volcano in September 2005 (left figure) and in June 2010 (right figure).

* 2013年12月2日受付

** 松島 健